

XX 構文の多義構造

形容詞を中心に

小田希望

1. はじめに

salad-salad のような表現は、典型的なサラダを意味し、レトリックとしては反復法にあたる（瀬戸・宮畑・小倉 2022）。しかし、語を反復して生じるのは通常「強め」の意味であり、語の意味を単に足し算しても「典型的な」の意味が生じることはない（cf. *long long time ago*）。そのため、本稿では、このような繰り返し表現は一定の形式と意味がセットである構文と考えて「XX 構文」と呼ぶ！。

XX 構文はプロトタイプ的意味を含めて複数の意味を持つとされるが、品詞別に考察する論や、構文として多義構造を論じる研究はほとんどない（cf. Song and Lee 2011, 小田 2021）。そこで本稿は、名詞に次いで使用頻度が高い形容詞に焦点を絞り XX 構文が持つ多義構造を明らかにする。

2. 先行研究

XX 構文のおもな統語的特性は、次の通り。①名詞・形容詞・動詞・副詞・代名詞など広範囲の品詞で使用される；②機能語では作れず、内容語のみを対象とする；③real を除き、形容詞で XX 構文を修飾できない（Ghomeshi *et al.* 2004, Bross and Fraser 2020）。

意味的特性に関して、ほとんどの先行研究に共通して挙げられるのが「典型的な X」を表すプロトタイプ的意味である。「典型的な X」の意味を含めて、Horn (2006)は、XX 構文が①prototype meaning、②‘value-added’ or intensified meaning、③literal meaning の意味を持つと論じる。②については、注意が必要である。‘Value-added’ meaning は婉曲的でほめかしの意味合いが強いと説明される（Horn 2006, Ghomeshi *et al.* 2004）。Horn (2006)は“*Oh, we’re not living together-living together.*”（「恋人として同棲している」の意）を‘value-added’ meaning の具体例として挙げる一方、“*It’s very hot-hot.*”のような例を関連する尺度上の極（relevant scalar extreme）に関わると説明して intensified meaning とする。そのため、‘value-added’ meaning は、「非常に X」を表す intensified meaning とは別の意味と捉えるのが妥当であろう²。本論では、XX 構文は intensified meaning, literal meaning, prototype meaning, ‘value-added’ meaning の4つの意味を表すと考える。

3. 形容詞の XX 構文の多義構造

形容詞 XX 構文が持つ4つの意味はどのような多義構造を形成するのか。メタファー・メトニミー・シネクドキが構文の多義構造を捉えるにも有効である（瀬戸（編）2007, 瀬戸・山添・小田 2017）。

- (1) A [to B who is about to give a recital]: Are you nervous?
B: Yeah, but, you know, not nervous-nervous. (Ghomeshi *et al.* 2004: 315)
- (2) Jeff: I mean, look at him, Aaron. He’s dead.
Aaron: You mean, like dead-dead?
Ryan: Is there any other kind of dead, Aaron? (Death at a Funeral)
- (3) Jenna: What colour is my tongue?
Matty: I don’t know. Red?
Jenna: Red-red or tongue red? (13 Going on 30)
- (4) A: I’m late, Lois.
B: Well if you didn’t spend so much time on your hair...
A: No, I mean late-late! (Ghomeshi *et al.* 2004: 315)

中心義は intensified meaning と考えるのが自然だろう。なぜなら iconic “quantity principle”によって、繰り返される語が「意味的な量」の増加と連動するからである。(1)の下線部は、really/extremely nervous の意味を表す。カテゴリーの観点で捉えると、intensified meaning の「非常に X」は、カテゴリーX (類) に属するサブカテゴリー (種) である。

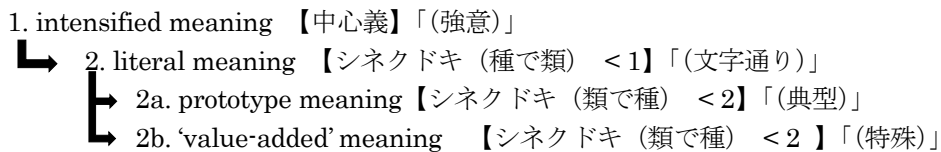
次に、中心義から literal meaning ヘシネクドキによって意義展開する。(2)の下線部は、仮死状態などではなく「文字通り死んでいる」を意味する。“Just an X, nothing more”を表す literal meaning は、「カテゴリーX 自体」と捉えられる（cf. Hohenhaus 2004）。中心義（Xのサブカテゴリー）で、カテゴリーX 自体（類としてのカテゴリー）

を意味するため、中心義から「種で類」を表すシネクドキによって展開する。

次の **prototype meaning** は **literal meaning** から派生する。(3)の下線部は自然な舌の赤色ではなく典型的な赤色を表す。プロトタイプもカテゴリーXのサブカテゴリー。したがって、**literal meaning** (類としてのカテゴリー) で **prototype meaning** (種としてのXのサブカテゴリー) を表すのは、「類で種」を表すシネクドキの意義展開だと考えられる。

最後の‘value-added’ meaning も **literal meaning** から派生する。(4)の下線部は、「時間的に遅れた」の意味が特殊化し、婉曲的に「(生理が)遅れた」を意味する。つまり、**literal meaning** (類としてのカテゴリー) で意味が特殊化した‘value-added’ meaning (種としてのXのサブカテゴリー) を表すため、「類で種」を表すシネクドキが意義展開に関与する。

以上、形容詞 XX 構文の多義構造を分析した。形容詞 XX 構文は、反復により iconic “quantity principle”に基づいて、まず、形容詞の程度が強められた **intensified meaning** が中心義として生じ、シネクドキを拡張原理に、中心義から **literal meaning** に、さらにそこから **prototype meaning**, ‘value-added’ meaning へそれぞれ意義が広がって構文全体のネットワークを形成すると論じた。図にまとめると次のように示せる。



4. おわりに

本稿では、形容詞の XX 構文のみを扱ったが、2節で述べたように、XX 構文は形容詞に限らず、広範囲の品詞で使用される。今後、その他の品詞を含めた XX 構文「全体」が、どのような多義ネットワークを形成するのか、とくに、XX 構文全体に対する反復法による「強め」の働きとはどのようなものなのかを検討したい。

注

1. 本論が扱う繰り返し表現に対する名称は、研究者の立場によって **contrastive (focus) reduplication (CR)**, **double construction**, **identical constituent compound (ICC)**, **lexical clone** など複数存在する。
2. 実際、Ghomeshi *et al.* (2004)や Benjamin (2018)は‘value-added’ meaning と **intensified meaning** をふたつ別個の意味として区別する。

おもな参考文献

- Benjamin, Brandon Lee (2018) *Identical Constituent Compounding: A Conceptual Integration-Based Model*. M.A. thesis, Case Western Reserve University.
- Bross, Fabian and Katherine Fraser (2020) Contrastive focus reduplication and the modification puzzle. *Glossa: A Journal of General Linguistics*, 5(1): 1-18.
- Ghomeshi, Jila, Ray Jackendoff, Nicole Rosen, and Kevin Russell (2004) Contrastive focus reduplication in English (The Salad-Salad Paper). *Natural Language and Linguistic Theory*, 22: 307-357.
- Hohenhaus, Peter (2004) Identical constituent compounding – a corpus-based study. *Folia Linguistica*, XXXVIII (3-4): 297-331.
- Horn, Laurence R. (2006) Speaker and hearer in neo-Gricean pragmatics. *Journal of Foreign Languages*, 164: 2-26.
- Horn, Laurence R. (2018) The lexical clone: Pragmatics, prototypes, productivity. In Rita Finkbeiner and Ulrike Freywald (eds.), *Exact Repetition in Grammar and Discourse*, 234-264. Berlin, Boston: Mouton de Gruyter.
- 小田希望 (2017) 「XX 構文の語用論的機能」『就実英学論集』34: 19-40.
- 小田希望 (2021) 「XX 構文の多義構造：名詞の場合」『日本語学会大会第 163 回予稿集』, 129-135.
- Radden, Günter (1992) The cognitive approach to natural language. In M. Pütz (ed.), *Thirty Years of Linguistic Evolution: Studies in Honour of René Dirven on the Occasion of His 60th Birthday*, 514-541. Amsterdam: John Benjamins.
- 瀬戸賢一 (編) (2007) 『英語多義ネットワーク辞典』東京：小学館。
- 瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明 (編著) (2022) 『[[例解] 現代レトリック事典』大修館書店。
- 瀬戸賢一・山添秀剛・小田希望 (2017) 『解いて学ぶ 認知構文論』東京：大修館書店。
- Song, Myounghyoun and Chungmin Lee (2011) CF-reduplication in English: Dynamic prototypes and contrastive focus effects. *Proceedings of SALT*, 21: 444-462.